

第四回 孝友塾 プログラム抄録集

第4回孝友塾 2024.7.13(土)14:00~ 17:00

テーマ

特定行為研修修了看護師の歴史から未来を紐解く

特定行為研修修了看護師（特定看護師と診療看護師）



藤田医科大学 心臓血管外科 客員教授

渡邊 孝 塾長

ZOOM開催

無料

URLは後日配布！

I. 基調討論 「愛知県の大学病院勤務

「特定行為研修修了看護師」の歴史と現状」

1. 藤田医科大学病院 FNP室 主任 廣末美幸
2. 愛知医科大学病院 NP部 師長 臨床教授 森一直

II. シンポジウム 特定行為研修修了看護師

（特定看護師と診療看護師）の協働と未来

1. 奈良県立病院機構奈良県総合医療センター看護部管理室日本心臓血管外科学会 特定行為修了者の会（NJSCVS）代表 市川慶幸
2. 鹿児島市立病院 麻酔科集中治療部 中島紀彦
3. 愛知医科大学病院 NP部 河村佑太
4. JA愛知厚生連 海南病院 手術センター 鬼頭宗誠
5. 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科 集中治療室 看護係長 伊波早乃

III. 特別講演 秋田県における「医師の働き方改革」と

「特定行為研修修了看護師」

秋田大学大学院医学系研究科保険学専攻 専攻長 安藤秀明

各セッションのコメンテーター

演者に加え、公立陶生病院看護局長（愛知県看護協会副会長）亀島加代様、藤田医科大学病院FNP室長の稲葉一樹先生にお願いしております。

こうゆうじゅく

孝友塾

塾長：渡邊孝 副塾長：伏見直記

役員：廣末美幸 村上友悟 森一直

事務局：松田奈々

アドレス：matsu7.1120@gmail.com



入力フォームはこちら

後援：日本NP学会・日本NP教育大学院協議会

特定行為研修修了看護師（特定看護師と診療看護師）の歴史から未来を紐解く

14:00~14:05

開会挨拶：渡邊 孝

14:05~15:00

I. 基調討論 愛知県の大学病院勤務「特定行為研修修了看護師」の歴史と現状

司会：伏見直記、渡邊 孝

1. 藤田医科大学病院 FNP室 主任 廣末美幸
2. 愛知医科大学病院 NP部師長 臨床教授 森 一直

コメンテーター

- 長崎大学病院 心臓血管外科 村上友悟
- 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 専攻長 安藤秀明
- 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科 集中治療室 看護係長 伊波早乃

15:00~16:15

II. シンポジウム 特定行為研修修了看護師（特定看護師と診療看護師）の協働と未来

司会：廣末美幸、森 一直

1. 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 看護部管理室
日本心臓血管外科学会 特定行為修了者の会(NJSCVS)代表) 市川慶幸
1. 鹿児島市立病院 麻酔科集中治療部 中島紀彦
2. 愛知医科大学病院 NP部 河村佑太
3. JA愛知厚生連 海南病院 手術センター 鬼頭宗誠
4. 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科
集中治療室 看護係長 伊波早乃

コメンテーター

- 公立陶生病院 看護局長(愛知県看護協会副会長) 亀島加代

16:15~17:00

III. 特別講演 秋田県における「医師の働き方改革」と「特定行為研修修了看護師」

司会：渡邊 孝

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 専攻長 安藤秀明

コメンテーター

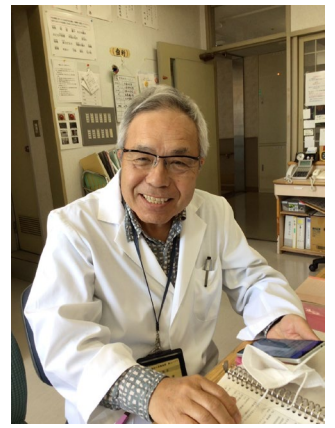
- 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科 集中治療室 看護係長 伊波早乃
(元)厚生労働省医政局看護科出向
- 藤田医科大学先端ロボット内視鏡手術学 教授 稲葉一樹
藤田医科大学病院 総合消化器外科 FNP室長

閉会挨拶：伏見直記

後援： 日本NP学会
日本NP教育大学院協議会

御挨拶

孝友塾 塾長 渡邊 孝



過去のメインテーマは
第一回「強い診療看護師となって生き残るには？」
第二回「critical領域「診療看護師」はcritical!!」
第三回「特定行為研修修了看護師」の将来を考える」でした。
今回は

「特定行為研修修了看護師（特定看護師と診療看護師）の歴史から
未来を紐解く」といたしました。

第三回以降は「診療看護師」をタイトルには使用していません。

厚労省・看護協会・看護系大学協議会JANPUも使用しません。唯一使用する日本NP教育大学院協議会JONPFは孤立状態ですが、不憫なのは多くのJONPF会員は事実を把握していません（学生会）。

法制化は看護界だけで追及するものではありません。医学界・看護界も含めてどの団体にも捕らわれず「知りたい問題点を自由に明らかにする！」を孝友塾のコンセプトとしております。添付のプログラムをご覧くださいませ。

- I. 基調討論： 原点に戻り、12年前の「東海NP/PA研究会」発足の中心となった愛知県の二大学院・病院の現在までの歩みと問題点を討論します。
- II. シンポジウム： 「特定看護師と診療看護師の協働と未来」の具体的討論です。ワクワク期待できる特定看護師の先生方の「生の声」は、（全）特定行為研修修了看護師の今後の活動を左右すると考えます。また、愛知県看護協会副会長様からのコメントがいただけるのは貴重です。
- III. 特別講演： 塾長と盟友であります演者の安藤先生は秋田大学大学院で特定行為研修修了看護師教育の責任者となっております。大学病院で臨床にも係わっておられる安藤先生は、医師会、看護協会、行政と連携して地域でシステム構築に活躍しています。<「医師の働き方改革」と「特定行為研修修了看護師」>を適切に語っていただけると期待しております。

また、何人かの先生方の貴重なコメントが各セッションを盛り上げると期待しています。

今までに引き続き、第四回孝友塾がそれぞれの医療従事者の方々への啓蒙に役立ち「特定行為研修修了看護師」の未来を支えて下さるよう祈ってやみません。

（今回も、演者の方々全員「手弁当」で講演をお願いしていることを申し添えます。）

2024年6月 吉日

【略歴】

- 1976年 3月 名古屋大学医学部卒業
- 1976年 4月 静岡済生会病院研修医ならびに胸部外科医員
- 1979年 4月 名古屋大学大学院医学研究科外科学（第一外科心臓外科）
- 1984年 3月 カナダトロント小児病院、心臓血管外科クリニカルフェロー
- 1987年 6月 名古屋大学医学部胸部外科助手
- 2000年 1月 名古屋大学医学部胸部外科講師
- 2001年 5月 名古屋大学大学院医学研究科 医学部併任胸部外科助教授
- 2001年 6月 静岡済生会総合病院 心臓血管外科科長
- 2003年 4月 豊橋市民病院 心臓血管・呼吸器外科第一部長
- 2007年 4月 藤田保健衛生大学医学部 臨床教授
- 2008年 4月 藤田保健衛生大学医療科学部 臨床工学科教授
- 2012年 4月 同 看護学科教授
- 2016年 4月 藤田保健衛生大学医学部 心臓血管外科・呼吸器外科学 客員教授
- 同 大学院保健学研究科 客員教授
- 2019年 4月 名古屋女子大学 健康科学部健康栄養学科 教授
- 2023年 9月 社会福祉法人 成蹊会 介護老人保健施設 東山ハイツ 施設長

現在にいたる。

- 日本心臓血管外科名誉専門医
- 日本小児循環器学会名誉専門医
- 日本人工臓器学会名誉専門医
- 日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会：チーム医療推進委員会委員
- 日本循環器学会ダイバーシティー委員会委員
- 日本NP教育大学院協議会監事
- 日本NP学会監事

御挨拶



孝友塾 副塾長 伏見直記

第4回孝友塾開催にあたり、司会を務めさせていただきます伏見と申します。

私は渡邊先生と2012年に藤田医科大学大学院に入学して以来、診療看護師や特定行為修了看護師としての経験を積み、現場の状況や制度化について見続けてまいりました。

今回のテーマである特定行為研修制度は、医療の高度化と専門化が進む中で、医療チームの一員として看護師の役割を拡大し、医療サービスの質を向上させるために導入されました。厚生労働省は2025年までに特定行為研修修了看護師を10万人養成するという目標を掲げていますが、2024年3月時点では修了者人数が9135人とどまり、目標には遠く及びません。この現状は、特定行為修了看護師の養成が困難であることを浮き彫りにしています。

現在、日本が直面している大きな課題である「少子高齢化」と「多死社会」は、人口構造の変化に伴い、高齢者の割合が増加し、死亡者数も年々増加しています。このような社会状況の中で、医療提供体制を見直し、適切な医療サービスを提供することがますます重要になっております。

各医療職種がそれぞれの強みを活かし、専門的な医療サービスを提供することが求められています。そして、医療全体で連携を図り、患者様にとって最適な医療を提供する体制を整えることが必要です。特定行為修了看護師と診療看護師が協働して働ける環境を整備することは、医療の質向上に直結すると考えられます。チーム医療を推進し、我々看護師だけでなく他の医療従事者とも協力し合い、患者中心の医療を実現することが大切だと感じております。

孝友塾では、特定行為修了看護師および診療看護師としての経験を活かし、「協働」「医師の働き方改革」「特定行為研修修了看護師」をキーワードに、歴史から未来に向けて皆様と共により良い医療を実現するために今何が必要なのかを共有し、良き塾にしたいと考えております。忌憚のないディスカッションが行えるよう進めてまいりたいと思いますので、どうぞ協力の程よろしくお願い申し上げます。

略歴

2012年	藤田保健衛生大学大学院 保健学研究科 看護学領域 急性期・周術期分野	入学
2014年	藤田保健衛生大学大学院 保健学研究科 看護学領域 急性期・周術期分野	卒業
2014年	櫻下会（藤田医科大学大学院 急性期・周術期分野同門会）	初代会長
2014年	藤田保健衛生大学病院 中央診療部 FNP室	
2015年	大同病院 NP部	
2016年	市立川西病院 診療部	
2018年	日本NP学会理事就任	
2022年	川西市立総合医療センター 看護部 診療推進室	
2024年	近畿NP学会理事就任	
2024年	市立伊丹病院 救急科	

御挨拶

孝友塾 事務局長 松田奈々



初夏の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。私は藤田保健衛生大学大学院（現、藤田医科大学大学院）を卒業し、7年目の診療看護師（NP）として活動している松田と申します。この4月より、大学教員としても務めさせていただいております。現在、臨床実務も週に二回行いながら、大学院生を大学院から病院実習まで一貫して指導しております。また、臨床現場での経験を通じてNPとしての理解を深めつつ、学生への教育に尽力しております。

近年、若いNP学生が増えてきており、病院で働くNPとのギャップを埋めることが急務であると感じております。これからも皆様と共にNPの役割を深化させ、より良い医療環境を築いていきたいと考えておりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【略歴】

2008年/4月 医療法人社団志仁会 三島中央病院 入職
2010年/3月 医療法人社団志仁会 三島中央病院 退職
2010年/4月 公益社団法人 日本海員掖済会 名古屋掖済会病院 入職
2016年/4月 藤田医科大学大学院看護学領域修士課程 入学
2016年/8月 公益社団法人 日本海員掖済会 名古屋掖済会病院 退職
2018年/3月 藤田医科大学大学院看護学領域修士課程 卒業
2018年/4月 藤田医科大学病院に診療看護師（NP）として入職し
2020年/4月 救急科へ専属配置
2024年/4月 藤田医科大学 臨床看護研修センター 講師 兼任FNP
藤田医科大学大学院 博士後期課程看護学領域 入学
2024年/5月 藤田医科大学 看護学科 講師 兼任FNP

現在に至る

御挨拶

孝友塾 新役員 小中野 和也



この度、役員に拝命いたしました名古屋ハートセンターの小中野です。
日本NP学会中部ブロック事務局長・愛知県看護協会特定行為研修推進委員などを務めております。
皆様のお力に添えるよう微力ながら期待に応えたいという気持ちでございます。
みなさまにはご迷惑をおかけしてしまうことも多々あるかと思いますが、力の限り尽くしていく
決意です。お力添えのほど、どうぞよろしくお願いいたします。

〈所属〉

医療法人名古屋澄心会 名古屋ハートセンター 心臓血管外科
手術室兼カテーテル室 主任
看護師特定行為研修 指導責任者
診療看護師 (NP) 小中野 和也
Kazuya Konakano, RN, ACNP, MNS
Cardiovascular Surgery
Nagoya Heart Center(NHC)

教育：

- 看護学修士、2017年卒業 藤田医科大学大学院

実務経験：

2008年4月 現在

医療法人名古屋澄心会名古屋ハートセンター 手術室

2019年4月 現在

藤田医科大学病院 診療看護師室

2020年

医療法人名古屋澄心会名古屋ハートセンター 医局

2022年

看護部主任 手術部責任者 特定行為研修指導責任者2024年 現在

スキルと実績:

- 手術室での経験にて、循環器領域の初期対応や救急分野に興味を持ち看護師資格を取得しました。

・資格取得後は循環器領域に関する手術やカテーテル室への配属となり、緊急対応における周術期分野で活躍をしました。

・医療の質の向上に努め、看護師への教育に対して、セミナー講師や勉強会の主催を多岐に渡り行なっている。

カンファレンスでのプレゼンテーション:

2012年 CCT

緊急大動脈解離に対する執刀までの時間短縮の取り組みについて

2017年 藤田医科大学大学院 学位論文

TAVI（経皮的動脈弁置換術）における診療看護師の役割

2018年 日本冠動脈外科学会

心臓血管外科における診療看護師の役割

2021年 日本NP学会

診療看護師(NP)による術前肺エコーでの肺癒着の確認方法と成績.

2021年 人工臓器学会

人工臓器学会 当施設でのIMPELLA挿入患者の予後調査並びに課題.

2022年 人工臓器学会

診療看護師のやりがいと課題

2022年 豊橋ライブ

心臓血管外科領域の診療看護師の今とフューチャー

執筆：

小中野和也. 大動脈弁狭窄症(AS)の術前・術後管理.呼吸・循環・脳実践ケア. 2021;42(3):37-46

小中野和也. 僧帽弁閉鎖不全症(MR)の術後管理.呼吸・循環・脳実践ケア. 2021;42(3):50-52

専門職協会：

- 日本看護師協会

- 日本NP学会

ライセンスと認定:

- 2008年、正看護師 第1478035号

- 2017年 診療看護師 修士課程

- 2018年、特定研修指導員、修了

- 2023年、看護師管理者研修ファーストレベル 修了

他、役員紹介

廣末美幸

基調討論抄録参照

藤田医科大学病院 FNP室 主任

森一直

基調討論抄録参照

愛知医科大学病院 NP部師長 臨床教授

村上友悟

基調討論抄録参照

長崎大学病院 心臓血管外科 特定行為研修修了看護師

**I. 基調討論 愛知県の大学病院勤務
「特定行為研修修了看護師」の歴史と現状**

司会：伏見直記、渡邊 孝

愛知県の大学病院勤務「特定行為研修修了看護師」の歴史と現状



藤田医科大学病院FNP室 主任 廣末 美幸

藤田医科大学では、2012年当時「看護師の特定行為に係る看護師の研修制度」の養成試行事業として大学院修士課程保健学研究科看護学領域に急性期・周術期分野を開講された。当時は、この先我々がどのような名称で呼ばれ、どのような業務を担うことになるのか、誰も分からない状況であった。

2014年より最初の大学院型の特定行為研修終了看護師がFNP(Fujita Nurse Practitioner)として「中央診療部FNP室」という診療部に所属し、まずはローテート研修として各科で研修を開始した。しかし、各診療科では医師の業務に対する潜在的な脅威として認識されたこともあり、また、看護師からは看護ケア業務を主たる業務としないうちに変わり者の看護師として捉えられ、FNP本人もどのように立ち回るのが正解か分からない、という状況から始まった。

とにかく患者さんにタイムリーな介入を行いたい、多忙を極める医師を手伝ってお役に立ちたい、そのために学べることは何でも学びたい、という思いで3年間のローテート研修を終え、2017年より診療科に固定配属となった。その後、卒後ローテート研修を整備して研修期間を2年間に定め、次第に研修生を受け入れてくださる診療科を増やしてきた。また、固定診療科も少しずつ増加してきており、活動拠点も3病院に拡大している。

以上は大学院型の特定行為研修修了看護師について述べたものであるが、一方で藤田医科大学病院看護部が主体となり2019年より非大学院型の特定行為研修も開講された。”藤田モデル”と称して、厚生労働省の設定したパッケージよりも修得できる特定行為区分が多い看護師を養成し、2020年より特定看護師と呼称して活動を開始している。

現在では、世の趨勢に合わせて救急、集中治療などのパッケージ区分の履修も行っており、2024年度より養成主体が病院看護部より大学の臨床看護研修センターに移された。学習スタート時期を調整することにより最大で年間76名の養成が可能となっているため、今後当院でも大学院型と非大学院型の特定行為研修修了看護師の人数差はどんどん開いていくことが予測される。

FNPは導入から10年が経過し、院内でかなり認知が進んできている。また、2024年2月よりFNP室は中央診療部から外れて病院長直轄の組織へと再編され、いっそうの貢献が期待されている。とはいえ、医師と同様に働きすぎのFNPを作ってはならない。10年後、20年後も持続可能な働き方にしていく必要がある。そのためには、医師からのタスクシフト/タスクシェアを受けるばかりではなく、大学院型特定行為研修修了看護師は、非大学院型の特定行為研修修了看護師とどのようにタスクシェアしていくべきか、皆さんと一緒に考えて参りたい。

略歴

2000年 准看護師を経て津山看護専門学校卒業、看護師免許取得
同年 看護師として、地元岡山の脳神経外科有床診療所で勤務
2009年 独立行政法人 大学評価学位授与機構にて学士(看護学)取得
2009年 川崎医療短期大学 放射線技術科 卒業、診療放射線技師免許取得
これ以降、看護師 兼 診療放射線技師として同診療所で勤務しながら、
2011年 岡山大学大学院 保健学研究科 博士前期課程 放射線技術科学分野 修了
2016年 藤田医科大学病院保健学研究科看護学領域 急性期周術期分野修了
同年 日本NP教育大学院協議会NP資格試験合格
藤田医科大学病院 中央診療部FNP室所属 診療看護師として勤務を開始
2018年 卒後2年のNPとしてのローテーションが終了
診療科を救命救急センターに固定し、現在はERで勤務
2020年 藤田医科大学病院 中央診療部FNP室副主任に就任
2021年 藤田医科大学病院 中央診療部FNP室主任に就任

愛知医科大学病院の 特定行為研修修了看護師の現状



愛知医科大学病院 NP部師長 臨床教授
森一直

愛知医科大学病院は、2015年の4月からNP教育大学院協議会が認定する「診療看護師（NP）」資格を取得した2名の臨床実践が開始した。愛知医科大学大学院では診療看護師（NP）の教育課程があり、その中で38行為の特定行為が取得できる。当院で活動しているほとんどの診療看護師（NP）が38行為の特定行為を取得しているが、38行為のすべてを取得しておらず一部の特定行為を取得している診療看護師（NP）も在籍している。

当院の特定行為の活用開始は法制度前であったため、安全に実施することができるように麻酔科の直接指示に基づいて実施し始めた。その後は特定行為の手順書の作成し、2015年10月の開始時には手順書を整備したが、その活用方法は手探りの状況であった。

2020年には看護部主導で看護師特定行為研修を開始し、診療看護師（NP）が多くの教育に関わり、今もその体制は大きく変わらない。2022年には診療看護師（NP）の部署が新設され、看護部と独立した形になった。しかし、特定行為研修制度は、看護師全体で進める必要があるため、別々の部署となったが多くの連携をしている。当院では、診療看護師（NP）を含めた特定行為研修修了者が90名ほど在籍している。今後は、特定行為研修修了者の支援や質の保証などが課題となると感じている。

略歴

- 2003年 3月 愛生会看護専門学校卒業
- 2008年 9月 愛知医科大学大学院看護学研究科 精神看護学領域 修了
- 2015年 3月 愛知医科大学大学院看護学研究科
急性・重症患者看護学 高度実践看護師コース 修了
- 2015年 3月 日本NP教育大学院協議会認定 診療看護師（NP）取得
- 2022年 2月 愛知医科大学大学院医学研究科 麻酔科学講座 医学博士取得
- 2022年 4月 愛知医科大学病院NP部 師長
- 2023年 4月 愛知医科大学看護学部 臨床教授

資格

- 2003年 3月 看護師免許取得
- 2015年 3月 日本NP教育大学院協議会認定 診療看護師（NP）取得
- 2016年 1月 看護師特定行為研修修了（21区分38行為）
- 2017年 9月 SCCM（Society of Critical Care Medicine）認定FCCSインストラクター

コメンテーター



長崎大学病院 心臓血管外科 村上友悟

長崎大学病院 心臓血管外科 村上友悟です。

藤田保健衛生（現：医科）大学大学院を修了して、11年目になりますが、特定行為修了者の役割や社会での認知度など、課題は修了当初とあまり変わっていないように感じています。

皆さんの発表や意見交換をしながら、特定行為修了者の役割を考え、アップデートできたらと考えています。よろしくお願いします。

●秋田大学大学院医学系研究科保険学専攻

専攻長 安藤秀明

Ⅲ.特別講演抄録参照

●日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科

集中治療室 看護係長 伊波早乃

Ⅱ.シンポジウム抄録参照

Ⅱ. シンポジウム 特定行為研修修了看護師 (特定看護師と診療看護師)の協働と未来

司会: 廣末美幸、森 一直

特定行為研修修了看護師の将来を 見据えた体制整備に向けて



地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター

看護部管理室 主任／診療看護師（NP） 市川 慶幸

2015年から看護師特定行為研修制度が開始され、2024年3月現在で9135名の看護師が特定行為研修を修了、大学院型修了者である診療看護師（NP）は872名となった。2024年4月から医師の働き方改革が施行され、各施設でタスクシフト／シェアをさらに推進していくことが求められている。今後、さらに高齢者が増加し、生産年齢人口減少によるマンパワー不足という課題も加わることから、タスクシフト／シェアの推進はもちろんのこと、専門的なスキルを持った医療従事者を確保しながら、チーム医療を推進し、持続可能な体制を整備していく必要がある。

2021年9月に厚労省医政局より「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスクシフト／シェアの推進について」の通知が各都道府県に発出され、各医療現場で看護師をはじめとする多職種の業務調整が進みつつある。看護師においては、特定行為研修修了看護師がタスクシフト／シェアを進めているが、まだまだ多くの課題を抱えているのが現状である。特定行為研修では基礎教育と特定行為の技術習得にとどまり、各診療科の専門的知識や技術を習得することは難しく、タスクシフト／シェアの課題の一つであると考えている。

日本心臓血管外科学会は「心臓血管外科診療におけるタスクシフト／シェア推進についての提言 2021」を発刊、2022年7月に「特定行為研修修了者の会：NJSCVS Nurse Association of The Japanese Society for Cardiovascular Surgery」を設立し、全国の心臓血管外科医や特定行為研修修了看護師からの意見を集め、心臓血管外科診療におけるタスクシフト／シェアの範囲についての検討やそのための教育体制の検討をおこなっている。学会が中心となり、タスクシフト／シェアの体制整備や、特定行為研修では習得できない各診療科の専門的知識や技術を習得できる機会を提供できれば、より大きな推進力になるのではないだろうか。

本シンポジウムでは、特定行為研修修了看護師のタスクシフト／シェアの現状と課題、将来的な医療体制を踏まえた私達の役割や体制整備の必要性について考察し、皆様とともに考える機会としたい。

【略歴】

2008年：天理医療大学卒業

2008年：公益社団法人天理よろづ相談所病院

2016年：藤田医科大学大学院：急性期周術期分野入学

2018年：藤田医科大学大学院：急性期周術期分野卒業 診療看護師（NP）資格取得

2018年：地方独立行政法人奈良県立病院機構奈良県総合医療センター 看護部管理室

2019年：現職 看護部管理室主任・手術部主任

2022年：日本心臓血管外科学会「特定行為研修修了者の会」代表

：くわた在宅クリニック（訪問診療：兼業）

「当院における診療看護師(NP) によるタスクシフト」

鹿児島市立病院 麻酔科集中治療部
診療看護師(NP) 中島紀彦



【はじめに】

近年外科医は年々減少しており、厚生労働省の令和4(2022)年 医師・歯科医師・薬剤師統計の概況における外科医の年次推移において、2000年から2022年までの22年間で1098人もの外科医が減少しており、特に20代から30代までの外科医は著しく減少している。また、一般社団法人 日本集中治療医学会「我が国の集中治療医療提供体制を強靱化するための提言」では、新型コロナウイルス感染拡大において、医療体制が逼迫した背景に、重症患者の治療を担う集中治療室の病床数が少ないことが問題視されているが、集中治療を担う医師は理想より少ない現状にあり、平時より質の高い集中治療医療を提供し、有事における医療崩壊を防ぐためには、集中治療科専門医増やすことや、看護師および臨床工学技士の育成・認定プログラムを制定し、急激な集中治療医療の需要増加に備えるべきであることなどが提言されている。しかし、その様な背景とは反して、2024年4月より医師の働き方改革がスタートし、平時の医療を規定の時間内に完結するのは困難となりつつある。今後、医師減少の背景を考えると、今までと同等の医療体制を維持するのは困難であり、医師と協働できる医師以外の存在が必要であると考え。今回、集中治療と消化器外科の2科で医師と協働する体制をとっている鹿児島市立病院の診療看護師の活動について報告する。

【活動実情】

当院では、2022年4月より診療看護師1名が勤務を開始している。2年間の診療科ローテーション研修を終了後、2024年4月より診療科所属となり麻酔科集中治療部に所属している。また、集中治療部のみではなく、消化器外科の手術助手としての機能や、院内各科のPICC挿入も担っている。

業務実績としては、集中治療での2024年5月の1か月間では、カルテ代行入力などの相対的医行為が78件、特定行為が38件であった。消化器外科での手術助手は、6件/月で外科手術が医師不足で滞ることなく円滑に進むことに貢献している。また、PICCは、診療看護師を中心に2023年8月より挿入を開始し、2024年4月よりPICCセンターとして本格稼働している。2022年1月～2022年12月までのPICC件数は17件、2023年1月～2023年12月は56件、2024年1月～2024年5月までの5か月間で54件となり、2024年は1年間で100件以上になる見込みでPICC挿入件数は増加している。また、PICCを含む特定行為に関しては、診療看護師と特定看護師は協働しながら特定行為を実践している。

現在までの協働体制が整うまでの背景には、2年間のローテーション研修および医師主導の診療看護師のコントロール体制を整備したことが大きく影響した。さらには、診療看護師として21区分38項目の特定行為研修を修了し、特定行為のみならず相対的医行為を実施し実践範囲が広いことが医師との協働体制に繋がったのではないかと考える。

【まとめ】

診療看護師と医師との協働体制の構築には、医師主導のコントロール体制、ローテーション研修の実施、医師との協働の積み重ねが重要であると考え。さらに、今後は診療看護師と特定看護師との連携も重要で、同じ特定行為研修修了者として共に医療体制の強化に繋げ、よりよりチーム医療の未来につなげていきたい。

略歴

中島 紀彦（なかしま のりひこ）

昭和59年1月5日生まれ 40歳

学歴

平成16年4月 尾道市医師会看護専門学校（昼間定時制）入学

平成20年3月 尾道市医師会看護専門学校（昼間定時制）卒業

令和2年4月 藤田医科大学保健学研究科保健学専攻修士課程 入学

令和4年3月 藤田医科大学保健学研究科保健学専攻修士課程 卒業

職歴

平成20年3月 天陽会中央病院 入職（ICU・手術室）

平成24年4月 鹿児島市立病院 入職 救命救急センター所属（フライトナース兼務）

令和元年7月～ 鹿児島市立病院 集中治療部（看護部）所属

令和2年4月～ 藤田医科大学進学のため休職

令和4年3月～ 鹿児島市立病院 看護部特定行為研修センター所属
2年間の診療科ローテーション研修開始

令和5年4月～ 鹿児島市立病院 集中治療部所属（看護部）所属

令和6年4月～ 鹿児島市立病院 麻酔科集中治療部所属

集中治療部で医師と共に診療を行いながら、消化器外科の手術人員が不足する場合はスコピストをかけもち。集中治療部医師および特定看護師と共にPICCセンターを運営し院内のPICC挿入依頼を受けている。その他、他科からの特定行為依頼がある場合は対応し診療看護師として組織横断的に活動している

資格

平成20年4月 看護師免許 取得

令和4年3月 診療看護師（NP）クリティカルケア領域 取得

特定行為研修修了看護師（特定看護師と診療看護師）の協働と未来 当院の特定行看護師の実際と診療看護師（NP）との協働について

愛知医科大学病院 NP部 麻酔科 診療看護師 河村 佑太



当院での診療看護師（NP）の活動は、2015年から始まり今年で10年目となる。活動当初の所属診療科は、麻酔科のみであったが2022年から看護部からNP部となった。現在の所属診療科は麻酔科6名、心臓外科1名、整形外科1名、リハビリテーション科1名と少しずつ活動領域が拡大し、卒後研修生を含めると22名の診療看護師（NP）が活動を行っている状況である。

2020年から特定行為研修を看護部主導で開始し、研修開始当初から診療看護師（NP）も特定行為教育に携わっており、2024年現在で75名の特定行為研修修了者が一般病棟病棟やユニット病棟、手術室、外来等で活動を行っている。

診療看護師（NP）と特定看護師の人数は、共に増加傾向で活動領域も拡大してきたことでRapid Response Systemでの連携や協働をする機会も多くなってきている。

また、診療看護師（NP）と特定看護師の合同カンファレンスを毎月1回行っており、活動状況の共有や特定行為をスムーズに行うためのシステム作り、手順書の見直し等を行っている。

当院での特定看護師と診療看護師（NP）の活動状況と、具体的な協働について今回のシンポジウムで発表をするとともに、特定行為看護師と診療看護師（NP）の今後の未来・展望について考えていきたい。

略歴

〈最終学歴/職歴・現職〉

2020年 愛知医科大学大学院 高度実践看護師(診療看護師)コース修士課程 卒業

愛知医科大学病院 麻酔科 所属

2024年 愛知医科大学病院 NP部 主任

愛知医科大学看護学部 臨床准教授

〈資格〉

2010年 看護師 資格取得

2020年 診療看護師（NP） 資格取得

「特定看護師の協働と未来 ～働き方改革の担い手として～」



JA愛知厚生連 海南病院 手術センター 鬼頭宗誠

当院では、2021年5月より特定行為研修修了看護師（以下：特定看護師）による術中麻酔管理の導入を開始した。2023年度の手術件数は5,606件であり、そのうち全身麻酔は2,285件であった。そのうち、特定看護師が担った全身麻酔件数は654件であった。また、当院でも術後疼痛管理チームを発足し、2023年1月より本格的に活動を開始した。2023年度の術後疼痛管理チームのラウンド件数は662件であった。

当院における麻酔科医師の職務は、術中麻酔管理以外にもクローズドICU管理、院内における急変対応など多岐に渡る。そのため、特定看護師によるタスクシェア・タスクシフトは欠かせない。麻酔管理領域の特定看護師によるタスクシェアは、全身麻酔の導入時などで業務を協働することにより麻酔時間の短縮や、手術室の占有時間短縮など手術室の有効活用に効果がある。またタスクシフトでは、手術開始後、患者の状態が安定していれば特定看護師が術中麻酔管理を行う。そのため、麻酔科医師は手術以外の業務時間確保が可能となる。

当院では、急性期充実体制加算施設基準維持ため、全身麻酔手術や緊急全身麻酔手術が増加している。そのため特定看護師の更なる活躍が期待されており、特定看護師の増員も計画されている。しかし特定看護師の活躍する背景には、手術看護師の負担増加や人員確保困難などの問題も生じる。それらの問題に対応するため、手術センター看護課長、麻酔科医師の采配を行う麻酔科医師で連携し、特定看護師の役割を調整、不足している業務への的確な人員配置を行っている。

シンポジウムに当たり、特定看護師として実際に業務にあたっている立場から現状の働き方、麻酔科医師との協働の具体例をお伝えしたいと思う。

【用語の定義】

術中麻酔管理：麻酔科医師の指示に従い、病状が安定している患者に対して入室から退室までの術中麻酔管理中の気管内挿管を除く一連の行為を指す。

1998年 桑名医師会立桑名看護専門学校卒業

1998年 財団法人青木会 青木記念病院 入職

1999年 有限会社 サトラサービス(看護師国会試験対策学業支援業) 入職

2002年 財団法人青木会 青木記念病院 再入職

2012年 JA愛知厚生連 海南病院 入職 手術センター配属

2021年7月 特定行為研修修了

特定行為研修修了者の協働がつなぐこれからの 医療・看護についての検討 ～それぞれの現状と今後の課題～



日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科 集中治療室 看護係長
伊波早乃

抄録本文

【背景】厚生労働省の調べによると、2024年2月現在特定行為研修修了者は8825名となっており、当初に見込んだ10万人にはほぼ到達できていない現状にあるものの年次経過においては確実にその人数を増やしている。また、2008年に大分県立看護科学大学大学院修士課程に「NP養成課程」が創設されて以来15年が経過し日本NP教育大学院協議会の資格認定を受けた診療看護師(NP)は、759名となり、全国各地の様々な医療現場で活躍を続けている。医療現場において「看護師特定行為」という言葉が緩徐ではあるがまた着実に浸透してきた今、現在の日本における少子高齢社会や医師の働き方改革などを鑑み、特定行為研修修了者それぞれが抱える現状と今後の課題について考える。

【現状と課題】

2023年2月時点において、各都道府県における指定研修機関は384施設となり、現在では大学や大学病院などの教育機関以外にも様々な場所で特定行為研修が行われ、区分やパッケージ等の研修を修了した看護師が医療現場での活動を期待されている。しかし、医師やその他の医療スタッフへの周知の困難さ、勤務体系における適正配置の困難さなど様々な課題を抱えている。次に診療看護師については、開始から15年の経過を経て急性期医療から在宅診療まで様々な場面での活動を行ってきたが、制度化の問題や医師や医療現場への周知、診療看護師自身が考えるキャリア形成などの課題を抱えている現状にある。

【考察】2024年を目前にし、医師のみが実施し得るとされている医療行為の一部について、看護師などの適切な教育を受け、必要な知識と能力を有するほかの職種による業務制限の大幅な見直しを含む本当の意味でのチーム医療への体制変換が求められている。我々は看護師特定行為研修修了者それぞれが抱える課題について積極的に向き合い、活動の幅を広げていく必要があるといえる。また、その根底には常に患者を中心に行っていることを忘れず、日頃から実践・理論・研究に渡る広域な能力を活用することが求められると考える。

【略歴】

1998年3月 沖縄県立沖縄看護学校卒業
1998年4月 日本医科大学多摩永山病院 入職
2005年3月 日本医科大学多摩永山病院 退職
2005年9月 沖縄県名護市立大宮小学校 入職（養護教諭 臨時教員）
2006年4月 沖縄セントラル病院 入職
2008年7月 ヘルスケアフロンティアジャパン 入職（産業保健師）
2009年4月 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター入職
2014年3月 国際医療福祉大学大学院 ナースプラクティショナー養成分野 卒業
2014年3月 診療看護師 資格取得
2015年4月 厚生労働省 看護師特定行為研修制度へ事業参画
2021年10月 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター 在籍
2023年4月 厚生労働省医政局看護課 出向
2024年4月 日本医科大学武蔵小杉病院 集中治療室 在籍中
循環器内科 診療看護師
救命救急センター主任看護師
日本心血管インターベンション治療学会 (INE)
日本循環器学会 ダイバーシティ委員会
日本NP学会 神奈川県支部 支部長

コメンテーター

公立陶生病院 看護局長
(愛知県看護協会副会長) 亀島加代



【略歴】

勤務先 公立陶生病院

氏名 亀島加代 生年月日：昭和36年10月15日生

学歴 昭和60年3月 愛知県立総合看護専門学校 卒業
資格 昭和60年3月 看護師
平成10年9月 治験コーディネーター
平成25年3月 認定看護管理者

職歴 昭和60年4月 名古屋大学医学部附属病院 就職
平成24年4月 名古屋大学医学部附属病院 副看護部長へ昇格
平成26年3月 名古屋大学医学部附属病院 退職
平成26年4月 公立陶生病院 就職 看護局長 就任 現在に至る

職位 平成26年4月～看護局長

役員歴 平成26年4月～平成30年3月 全国自治体病院協議会 看護部会 幹事
平成30年4月～令和4年3月 全国自治体病院協議会 看護部会 副部会長
平成28年6月～平成30年3月 愛知県看護協会 瀬戸地区支部 副支部長
平成30年4月～令和4年6月 愛知県看護協会 瀬戸地区支部 支部長
令和5年6月～ 愛知県看護協会 副会長 (現在)

**Ⅲ. 特別講演 秋田県における
「医師の働き方改革」と「特定行為研修修了看護師」**

司会：渡邊 孝

特別講演：秋田県における

「医師の働き方改革」と「特定行為研修修了看護師」

地域で求められる上級看護師育成と活躍～秋田方式～



秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 専攻長 安藤秀明

我が国における医療制度において、医師のみならず看護師をはじめとするメディカルスタッフの不足は緊急課題である。この解決のため、これまでの医療システムの改革が必要で、アメリカにおける臨床医と看護師の間職である上級看護師という概念の導入普及がその鍵になると考えている。アメリカにおいては、NP資格は50年前に創設され、現在は約10%の看護師がNPとして活躍している。

アメリカにおいては普及しているが、その働き方は州によって大きく異なる。本邦において国に国家資格化の交渉のなかで、いつもアメリカと制度の違いが問題となる。さらに、行政における医療制度の課題というよりは各施設における上級看護師のニーズと活躍が異なっていることも考えてゆかなければならない。厚労省の見解は、看護師の診療補助行為に関しては、制限しているわけではなく、各施設で決めて運用してほしいとされている。

今回、日本の医療改革で上級看護師として、NPおよび特定行為研修修了看護師が活躍するため、(1) 医師とメディカルスタッフの連携における米国と日本の医療制度の違い、(2) 現場における上級看護師のニーズを考える、(3) 地域/施設で上級看護師の権限を確立して持続可能にするためにをポイントとして「秋田方式」を紹介し、今後の戦略を皆さんと一緒に考えてゆきたいと思います。

略歴

職歴

1988年 秋田大学医学部 卒業

1988年 秋田大学 医学部 第一外科入局

1989年 市立秋田総合病院 外科

1990年 秋田大学 医学部 第一外科 医員

1994年 青森県立中央病院 外科

1995年 秋田大学 医学部 第一外科 医員

2000年 秋田大学 医学部 第一外科 助手

2003年 中通総合病院 外科 科長

2004年 中通総合病院 緩和ケアチームリーダー兼任

秋田大学医学部消化器外科 非常勤講師

2007年 中通総合病院 医療安全管理部長兼任

2008年 中通高等看護学院 非常勤講師

2009年 秋田大学医学部臨床講師

2010年 秋田大学大学院医学系研究科 戦略的外科系医師養成プログラム 准教授

2012年 秋田大学医学部附属病院 緩和ケアセンター長兼任（現在に至る）

2014年 秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻 臨床看護学講座 教授

秋田大学医学部附属病院 総合臨床教育研修センター 副センター長兼任
（現在に至る）

2016年 秋田大学医学部附属病院 地域医療患者支援・がん相談支援センター
副センター長兼任（現在に至る）

2018年 秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻 専攻長（現在に至る）

秋田大学大学院医学系研究科 副学科長（現在に至る）

2021年 秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻 看護学講座 教授（現在に至る）

2022年 秋田大学医学部附属病院 NP室長兼任（現在に至る）

所属学会・学会資格

日本外科学会（指導医・専門医）

日本消化器外科学会（指導医・認定登録医） 日本消化器病学会（評議員・専門医）

日本緩和医療学会（代議員） 日本臨床外科学会（評議員）

日本内視鏡外科学会（評議員） 日本 NP 教育大学院協議会 理事

がん治療認定医機構（がん治療認定医、暫定教育医）日本病院会（医療安全管理者）

アメリカ外科学会 名誉会員 アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）active member

秋田県がん対策推進委員会委員 日本サイコオンコロジー学会

その他所属学会 日本癌学会、日本癌治療学会、日本外科系連合学会、日本肝臓学会、
日本医師会、日本がん看護学会

International Society for Digestive Surgery, International
Hepato-Pancreatobiliary Association, Society of American
Gastrointestinal Endoscopic Surgery

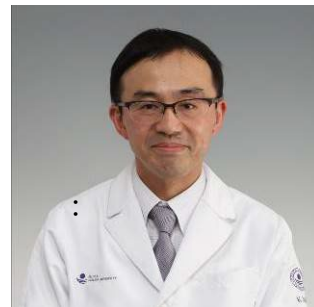
専門

消化器外科一般、胆道疾患、腹腔鏡手術、緩和ケア、癌化学療法、医学教育など

コメンテーター

- 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科
集中治療室 看護係長 伊波早乃
(元)厚生労働省医政局看護科出向
Ⅱ.シンポジウム抄録参照
- 藤田医科大学先端ロボット内視鏡手術学 教授 稲葉一樹
藤田医科大学病院 総合消化器外科 FNP室長

ふりがな： いなば かずき
氏名： 稲葉 一樹
メール：kinaba@fujita-hu.ac.jp



現職：藤田医科大学 医学部 ロボット・内視鏡手術学教授

学歴

1993年4月入学～1999年3月卒業 京都府立医科大学 医学部

認定医、専門医、指導医など：

1999年4月 医師免許 2009年3月 医学博士 藤田保健衛生大学 第441号

日本外科学会 外科認定医 外科専門医 外科指導医

日本消化器外科学会 専門医 指導医 消化器がん外科治療認定医

日本内視鏡外科学会 技術認定取得者 ロボット支援手術プロクター(胃)

日本食道学会食道科認定医

日本臨床外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本胃癌学会代議員

Fellow of the American College of Surgeons

所属学会

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本胃癌学会、日本食道学会

日本内視鏡外科学会、日本癌治療学会 東海外科学会、愛知臨床外科学会 医療の質・安全学会

日本腹部救急医学会、日本ロボット外科学会、American College of Surgeons

日本医療ソーシャルワーカー協会賛助会員 愛知県医療ソーシャルワーカー協会賛助会員

職歴：

年月(西暦)

事柄

1999年4月～2001年3月 京都府立医科大学病院 外科研修医

2001年4月～2003年3月 京都府立与謝の海病院 外科修練医

2003年4月～2004年3月 京都府立医科大学病院 消化器外科修練医

2004年4月～2007年3月 藤田保健衛生大学 医学部 上部消化管外科学助手

2007年4月～2009年6月 藤田保健衛生大学 医学部 上部消化管外科学助教

2009年6月～2010年7月

Clinical fellow, Yonsei University, College of Medicine, Seoul, Korea

2010年8月～2010年9月 藤田保健衛生大学 医学部 上部消化管外科学助教

2010年10月～2012年3月 藤田保健衛生大学 医学部 上部消化管外科学講師

2012年4月～2014年3月 名古屋第二赤十字病院 一般・消化器外科 医師

2014年4月～2014年12月 名古屋第二赤十字病院 手術副部長

2015年1月～2016年3月 藤田保健衛生大学 医学部 上部消化管外科学講師

2016年4月～2018年3月 藤田保健衛生大学 医学部 総合消化器外科学准教授

2018年4月～2021年3月 藤田医科大学 医学部 総合消化器外科学教授

2021年4月～現在 藤田医科大学 医学部 先端ロボット・内視鏡手術学教授

2024年2月～現在 藤田医科大学病院 FNP(Fujita Nurse Practitioner(診療看護師)室長

以上.